

第 11 回 日本とフィリピン①—出稼ぎ・移住を中心に

イントロダクション

国際移動するフィリピン人とその人生

2 つの“ANAK”：

歌「息子よ」(フレディ・アギラ) と映画『母と娘』(ロリー・B・キントス監督)

フィリピン人の海外出稼ぎの歴史

1950 年代、欧米中心に技術者・専門家が出稼ぎ

1970 年代、マルコス期に中東への OCW (海外出稼ぎ契約労働者) の増加

1980 年代、アジア (シンガポール・香港・台湾) への家事労働者・介護労働者の増加

* 現在は、600 万人前後 (約 8700 万人中) が世界中で働く労働力輸出大国

在日フィリピン人

推定 15 万人から 20 万人 (不法就労者を含む)

日本への出稼ぎ人口の 9 割が女性、その大部分がエンターテイナー

⇒日本大使館発行興行ビザ (歌手・ダンサーとして) による合法就労

フィリピン女性エンターテイナーを取り巻く諸問題

・契約違反

「ホステス」業務従事、賃金不払い・遅滞、客との強制デート (同伴)、セクハラ等

・JFC (ジャパニーズ・フィリピノ・チルドレン)

日本人配偶者やパートナーとの断絶

・フィリピン再統合

育児、家族のための自己犠牲、「じゃばゆき」としての差別

配偶者としてのフィリピン人女性

80 年代以降、日本人男性とフィリピン人女性の結婚が増加

90 年代、年間 5000 組から 7000 組が結婚

農村花嫁型から多様化へ

日本人男性と外国人女性との結婚総数のうち、3 割前後を占める

推定 5 万組、2010 年には 10 万組、日本国内のフィリピノ・ファミリーの顕在化

偽装や離婚、DV といった問題

看護師・介護士の受け入れへ

2004 年、日比間で FTA（自由貿易協定）締結ー「人身売買」から「ヒトの自由化」へ

⇒日本国内の少子高齢化、看護師・介護士の不足への対策

⇔外国人介護による摩擦、日本人職員の失職

⇔フィリピン国内での看護師・介護士の不足と頭脳流出

エンターテイナーから配偶者、そして看護師・介護士へ

リアクションペーパー

(a) 講義内容

(b) 質問・コメント

(c) クイズ：自分の中のフィリピン人についてのイメージ

参考文献

DAWN（編）（2005）『フィリピン人女性エンターテイナーの夢と現実ーマニラ、そして東京に生きる』（DAWN-Japan 訳）明石書店

久田恵（1992）『フィリッピーナを愛した男たち』文春文庫

今藤元（2004）『奥様はフィリッピーナ』彩図社

大野拓司・寺田勇文（編）『現代フィリピンを知るための 60 章』明石書店